

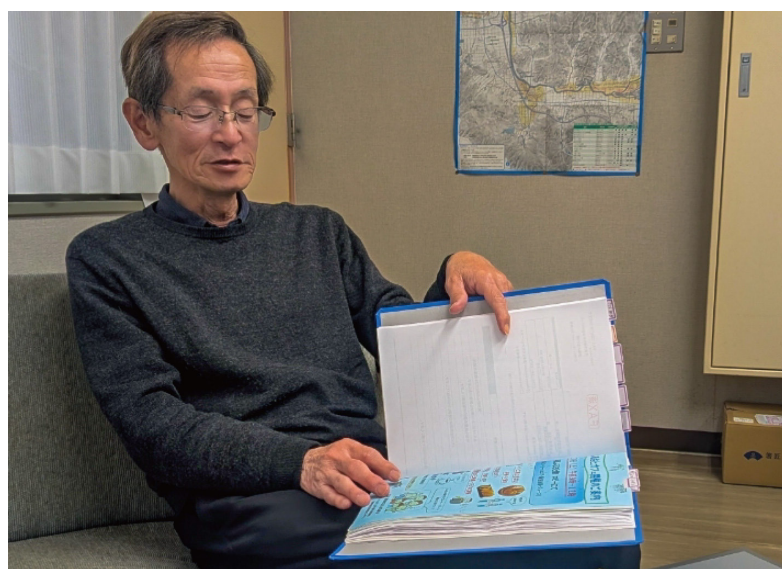
たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tam tam

2025.05
VOL.34

丹波市市民活動支援センター

人と人をつなぐ 情報発信



特集

情報発信で築く
新しいつながり

活動紹介

南多田自治会 広報編集委員会

コラム

「共感が仲間を呼ぶ」 柏木輝恵さん

事例

ふるさと和田振興会
国領地区自治協議会

特集 情報発信で築く新しいつながり

あなたの住む地域では、どんな「情報発信」の活動がありますか。自治会では、定期的なお便りや行事のチラシを作られている地域も多いのではないのでしょうか。何気なく目に入っているチラシも、作る人のさまざまな想いが込められています。

一方、地域で情報発信の担当者になると「何を書いたらいいのかわからない」「いつも同じ内容になってしまふ」「誰も見てくれてなさそう」といった悩みを抱えてしまうことも多いでしょう。

情報を発信することは、広く情報を知ってもらうだけでなく、一緒に活動する仲間を見つけ、活動しているみなさんを応援してもらうために大切な活動です。

今号では、情報発信を通して、「人」とつながるヒントや、これまで関わりの少なかった人たちと出会い、交流が生まれていくきっかけについて取り上げます。

関わる人の輪から広がる情報発信

イベントのお知らせなどが「誰でもいいから来てほしい」「広く情報を発信したい」という内容になってしまっていない情報になってしまふのは、非常にもったいないことです。イベントに来てほしい対象者は高齢者なのか、若者（※1）なのか、意識して発信できていますか。高齢者向けであれば、文字が読みやすく手元で確認できるチラシ、若者向け

であれば文字情報よりSNSで動画を使った発信が有効であると言われています（※2）。届けたい人をイメージして、その年代と情報との接点を考え、発信方法を選択することが大切です。

また、市民活動支援センターに寄せられる相談では、「SNSはどうやって始めるといいか」「広報紙の紙面のマンネリ化に悩んでいる」「チラシのデザインがうまくいかない」といった悩みをお聞きすることが多くあります。それらの相談者には、団体メンバーの固定化、限られた年代で企画、組織内の広報担当者が1人しかいないといった共通点があります。情報発信に関わる人が少ないとアイデアや情報の偏りが起きやすくなります。まずは、周りに活動や思いに共感してくれる人を見つけ、一緒に考えたり、相談したりすることで、情報の輪も、関わる人の輪も広がっていくのではないのでしょうか。

※1 本紙での若者の年代は、20代・30代を指します。
※2 参考 谷浩明著「公務員のための伝わる情報発信術」2021、p.54・60

届けたい相手の年代と情報の接点に関する傾向



(市民活動支援センター作図)

活動紹介

南多田自治会 広報編集委員会



右…梅垣守明さん
(自治会総代)

左…亀井美登枝さん
(公民館主事)



地域と人をつなぎあう広報紙づくり

南多田自治会は柏原地域にあり、約450世帯で構成されています。年に4回ほど発行している「広報みなみだ」は、2025年5月の発行で第203号を数えます。広報紙の発行は、自治会総代と公民館主事、公民館副主事などの9名で構成される広報編集委員会で作成しています。公民館主事の亀井美登枝さんは、広報紙づくりを担当し、5年目になります。亀井さんが広報紙の担当になった最初の2年間は、地域のいろいろなところを歩いて回り、住民の声を聞き情報を集めていました。

今年度、自治会役員の交代もあり、広報紙づくりに携わったことのある委員は、亀井さんを含め3人のみになりましたが、亀井さんは新しい委員からの様々なアイデアを楽しみに、広報紙を作っていきたいと考えています。

委員会のメンバーは30〜70代の男性5名、女性4名です。子育て中や現役で働く若い世代と、子育てや仕事が一段落した世代の住民が参加しています。委員会では、亀井さんが



共感が仲間を呼ぶ 活動の輪を広げる情報発信



柏木輝恵さん

(NPO法人シシンスーズ)

加古川市を拠点に、NPOをはじめ

とする市民活動やその組織のPRや

ブランディングを支援

「志を同じくする仲間を増やしたい」これは多くの市民活動団体に共通する願いです。その実現に向けた情報発信を考える時、特に意識しておくべき視点が2つあります。

まず1つ目は、「何をするか」よりも「何のために」を伝えること。たとえば「毎週土曜に公園清掃をしています」より、「子どもたちが安心して遊べる地域づくりのために公園清掃しています」と伝える方が、共感を呼びやすくなります。

2つ目は、その思いや理念を一貫して繰り返し発信することです。活動の様子を伝える際にも子どもたちが安心して遊んでいる清掃後の公園の様子を添えるなど、背景にある想いを継続的に届けることで、団体の姿勢や価値観が周囲に浸透し、自然と仲間が集まりやすくなります。情報発信は、団体の「らしさ」を伝える手段。思いや理念に共鳴する人との出会いを育むためにも、「何のために」から始める発信をぜひ心がけてみてください。

自治協議会の取り組みから見る

地域の情報発信

丹波市内の自治協議会では、広報紙を発行し、地域住民に情報を届けています。掲載される情報はさまざま、行事の開催報告や暮らしの参考になる情報、移住者の紹介など、協議会それぞれの個性があります。さらに地域によつては、広報紙だけでなく、ホームページ、FacebookやLINEなどのSNSを導入し、情報発信の目的に合わせて活用されています。例えば、住民や地域を訪れる人とのつながりづくりのためLINEを活用したり、1人でも多くの住民にイベントに参加してほしいとチラシを工夫したり、情報を届けたい相手を意識した取り組みがいくつもあります。今号では、ふるさと和田振興会と国領地区自治協議会の取り組みを紹介します。



広報紙の記事に内容案の大枠を提案しています。話し合いの土台があることで、委員から意見やアイデアが出やすく、委員一人ひとりが自分の思いを発言しやすい雰囲気をつくっています。

また、広報紙の記事は委員会だけでなく、他の役員にも声を掛け、原稿を執筆しています。今年度からは、より多くの住民に目を通してもらうアイデアとして、南多田の「人」を取り上げる記事を作っていく予定です。地域の「つながり」が広報紙として、取材を通じたつながりづくりを大切にしています。

自治会総代の梅垣守明さんは、「広報紙は、自治会の情報を住民のみなさんに届ける大きなツール。今年度の自治会のテーマとして『繋ぎ合い、支え合い、助け合う、元気な南多田』がある。住民同士をつなぎあうため、広報紙が大きな力になると思っている」と話してくださいました。

「住民の会話の中で広報紙のことが話題に出たり、感想を聞くと励みになる。広報紙づくりを継続できるように、構成デザインは地元企業にお願いして、委員の負担を減らすようにした。ただ、アイデアはみんなを出し合い、作っていきたい」と亀井さん。亀井さんの思いが届き、人がつながり、関わる人たちの思いが形となって広報紙が作られています。



▲5月の発行に向け、計3回開催される広報編集委員会

事例①

LINEで育む地域を訪れる人とのつながり

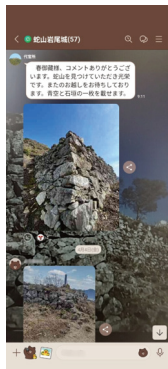
(ふるさと和田振興会)

山南地域のふるさと和田振興会(以下、振興会)では、LINEのオープンチャット機能を使って、「蛇山岩尾城」を来訪する方同士や、振興会と来訪者との双方向でのコミュニケーションをとっています。オープンチャットはLINEで友達になっなくても、ニックネームでやりとりができるトークルーム機能です。

特に今年は巳年の干支にちなんで岩尾城に登られる方が多く、オープンチャットのグループ内では、登山された方が写真を添えて感想を書いたり、四季折々の山や登山道の様子を発信したりしています。蛇山をきっかけに和田地域を来訪された方とつながる機会を逃さず、情報発信に取り組んでいます。

地域コミュニティ活動推進員の永井隆文さんは、「二度登山に来て終わりではなく、オープンチャットをきっかけに、登山者との交流につなげたい。振興会は代官所、自分は城主として登録し、イベントの案内や登山者の投稿にコメントしている。地域の人の力もあつて整備されている蛇山や和田のことを知ってほしい」と話してくれました。

オープンチャットの登録者数は現在57名で、登山者はシニアの方も多く、登録へのハードルがあるようです。課題もありますが、「新しい方法と取り入れて、色々試していきたい」と永井さんは前向きです。



▶登山者が気軽に写真をシェア、コメントできるオープンチャット

事例②

講座で学んだチラシづくりの実践

(国領地区自治協議会)

誰でもチラシなどを無料でデザインできるCanva(キャンバ)というウェブサービスがあります。Canvaは、イラストやデザインの雛形の種類が多く、デザインの知識がなくても、簡単にチラシやSNS用の画像などを作ることができます。

春日地域にある国領地区自治協議会の会長、久下拓朗さんと地域コミュニティ推進員の山本一幸さんは、市民活動支援センターの講座をきっかけに、Canvaを活用するようになりました。これまでチラシづくりにはWordを使用していたが、講座で学んだことをきっかけに、クリスマス会やふるさとカフェ、講習会のチラシなどをCanvaで制作されています。

山本さんは、「Wordでは、背景に模様やイラストを入れるのが難しかった。Canvaで季節感のあるチラシが作れるようになって、綺麗になったと言ってくれる人もいた。イベントの参加者も少しは広まっているかなと思う。これからもチラシづくりを学んでいきたい」と話してくれました。

クリスマス会では、プレゼンントにケーキを用意し、どのくらいの人や世代の人がケーキを受け取りに来てくれるか調べて、チラシの情報がどこまで届いているか、検証しようとしたそうです。新しいツールを勉強、活用し、その効果も確認しながら進めていくことで、より地域に合った情報発信につながっていきます。



▲Canvaを使って制作された協議会の行事チラシ

発信方法を組み合わせ活用しよう！

情報発信は、その方法によって期待できる効果や届けられる・届けやすい対象が異なります。そのため、紙のチラシだけでなく、SNSだけといったひとつの方法だけでなく、複数の方法を組み合わせた発信が効果的と言われるています。自分たちの活動、組織に合った情報発信ツールを使ってみましょう！

代表的な情報発信方法と期待できる効果*

	地域の広報誌	チラシ	ホームページ	SNS	メルマガ	ロコミ
発信の速さ	×	×	◎	◎	◎	×
伝達力(シニア)	◎	◎	△	×	×	○
伝達力(若者)	△	△	○	◎	○	△
対面・コミュニケーション	○	◎	×	×	×	◎

※シニアの利用者が比較的多い SNS (例えば、Facebook や LINE 等) を活用すれば、効果が期待できる (市民活動支援センター作図)

お知らせ

市民活動支援センターでは、地域の広報紙を掲示しています。私たちも広報紙づくりをがんばっている！という自治会、団体のみなさん。ぜひ市民プラザで紹介させてください！



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館